

学校を支援するボランティアの拡充を！

誠和会 小高 良則



子どもたちの生命、健康を守るために、平成22年度中に小学校6年生まで医療費助成の拡充を！

誠和会 山口 孝弘



道路問題について

問 国道409号の歩道に未整備箇所が点在している。自転車、歩行者、車が安心して通行できる整備を望むが如何か。

市長 号を管理している千葉県印旛地域整備センターに確認したところ、ご指摘の箇所は、一部道路の境界が未確定であることや、多くの費用を必要とするため、現在の財政状況では大変厳しいとのことでした。なお、境界が確定している箇所については、現在の幅員の中で可能な路肩整備を、さらに歩道用地が買収済みである箇所については、その整備を順次行っていきたいとのことでした。

問 立体減速シートの設置について伺う。

市長 数カ所を平成21年度中に整備したいと考えています。そのための準備として現地調査を行い、専門業者からのアドバイスな

ども受けていますので、工事の発注まで、いましばらくお時間をいただきたいと思っています。

教育問題について

問 学校を支援するボランティアの拡充について伺う。

教育長職務代理者

学校を支援するボランティアは、現在、保護者の方々が中心となっており、各校で行われています。その中で、学校支援ボランティア事業として、「育て実住つ子応援プロジェクト実行委員会」が実施している「学校支援地域本部事業」があります。この事業は、実行委員会が学校支援活動の企画、広報活動、人材バンクの作成、地域コーディネーターの配置及び事後評価を行い、配置された地域コーディネーターが、学校の求めに応じ、学校とボランティア間の調整を行います。その活動内容は、授業中の学習支援をはじめ、総合的な

学習時間の指導、発表会などの引率支援、校内環境整備、夏休み中の学習支援、子どもたちの登下校時の安心・安全を守る活動を、より拡充させた「見守り隊活動」などです。教育委員会では、この事業を拡充させるために「地域コーディネーター講座」を平成21年度から実施しています。今後も「地域コーディネーター講座」を小学校区等で順次実施し、子どもたちを健全に育てる環境づくりのため、学校・地域・家庭が連携した学校支援等のボランティアの拡充を図っていきたいと考えています。

※その他の質問

◆八街バイパスの進捗状況と今後の取り組みについて

◆八街駅北側土地区画整理事業について

◆新型インフルエンザワクチンの接種について

◆学級・学年閉鎖に対する対応策について

◆学校給食について

医療費の助成について

問 未来の八街市、そして日本を支えていくのは子どもたちであり、その子どもたちの生命、健康を守っていくことは、社会の使命であり、政治の使命であると考えます。また、子育ては、保護者の義務ではあるが、この少子化の時代にあつては、社会や地域が一緒に支えていくことが不可欠である。そこで、医療費の助成を小学校6年生まで拡充することを望むが如何か。

市長

現在の国内の経済状況等を見ますと、少子化対策や子育て家庭における経済的支援の重要性は十分認識されており、八街市においては、平成21年9月より小学校1年生から小学校3年生までの児童医療費助成を開始したところですが、さらに、小学校6年生までの児童医療費助成の拡充については、多額の財政負担となりますが、財政状況を踏

まえ、平成22年度中に実施の方向で検討をしています。

未来をにう子どもたちのために医療費助成拡充を



八街市の観光について

問 観光は、さまざまな産業の発展と雇用機会の増大をもたらす総合産業であり、地域経済の活性化にとって、今後ますます重要になると思われる。そこで、観光に力を入れては如何か。

市長

以前、商品開発チームを組織し、落花生を利用した新商品の開発に取り組んだ経緯があります。そ

のときには、いろいろな試供品を作り、サンプル調査まで試みましたが、残念ながら商品化までには至りませんでした。しかしながら、近年では、「むらさきニンジン」や「おおまさり」など、新たな特産物になり得る農産物の生産が行われていますので、今後も、新たにそのような取り組みに対し、支援していきたいと考えています。

千葉国体について

問 9月25日から10月5日に、千葉県で第65回国民体育大会、通称千葉国体2010が開催されるが、そこで八街市の日本一の落花生や地元農産物をPRする取り組みとしては如何か。

市長

落花生をはじめとした農産物のPRは、今までも積極的に行ってききましたが、千葉国体においても積極的に取り組んでいきたいと考えています。

経済環境部長

を

は